

平成 29 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団		ホーム名	ライフ・イン京都			ID	2911	
	評価機関	京都府認知症グループホーム協議会				評価日	1月22日		
スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A	
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A	
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A	
1.1.4	B	B	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A	
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A	
1.2.2	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A	
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A	
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A	
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A	
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A	
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A	
1.4.2	B	B	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A	
1.4.3	B	B	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A	
1.4.4	B	B	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A	
1.4.5	B	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A	
1.4.6	B	B	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A	
1.4.7	B	B	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A	
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A	
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A	
1.5.2	A	A	3.1.5	A	A	7.3.3	A	A	
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A	
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A	
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A	
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A	
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A	
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A	
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A	
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A	
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A	
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A	
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A	
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A	
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	B	B	
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A	
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A	
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A	

## 評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
2-3-9	入居者の人権を尊重し安心・安全な日常生活を提供するために、サービスの質の向上を目指して。取り組みとして、コンプライアンス委員会・人権擁護委員会・教育研修委員会など広い視野のもと各種の委員会を設けている。「苦情解決委員会」もその一つであり、入居者の満足度を大切にし、ライフ・イン京都施設管理規程に別表としてライフ・イン京都苦情対応規程を定めている。苦情申し立てと解決処理の手順を明確にし、万一解決が困難な事例では第三者機関に委ねることも明記している。契約書・重要事項説明書にも「苦情申し立て」の項目を記載して入居者本人・家族などに周知を図っている。その他、苦情・相談対応マニュアルと苦情・相談対応フローを策定し、公正・公平な解決に努めている。その結果は、文書により入居者や関係者に配布するとともに運営状況説明会を開催し周知を図っている。事例に応じて、事業運営に反映させている。運営方針の中にも、苦情解決内容等の情報開示を挙げているが、入居者・職員・関係者などが情報を共有することによって、信頼関係が深まり質の高いサービス提供に繋がっている。
3-1-6	入居者は、多彩な趣味を持っておられる方が多く、サークル活動が盛んに行われている。ダンス教室・絵画教室・詩吟教室・気功教室・カラオケ同好会、童謡唱歌の会・卓球やマージャンなども人気があると聞く。最初は職員が支援しているが、ある程度の纏まりができると入居者で自主運営している。そのための共用空間となる部屋が数多く提供されており、映画鑑賞・音楽鑑賞の部屋である「シアタールーム」や「カルチャー教室」「茶室」「和室」「アトリエ A・B2室」「おしゃべりテラス」「図書室」等がある。図書室は本の整理・整頓など入居者が行っていて、綺麗に種類別に整理され、貸出もされている。機能訓練室との兼用ではあるが、アスレチックルームにはビリヤード台や卓球台・各種リハビリ機器などが設置されている。その他、多目的ホールがあり、講演会や音楽会などイベントに利用されている。多様な楽しみ方があり、日常生活の充実から「心身のゆとり」につながり健康寿命に反映している。
4-1-1	専任の生活相談員が、入居者の日常生活上の心配事や不安など聞き取っている。家族などからの相談事もあり適切なアドバイスや支援を行っている。法律相談や認知症、福祉用具、介護保険制度等に関する相談などもあり、状況に応じて専門職に繋げている。後見人制度の説明をして専門家（リーガルサポート京都）を紹介したり、確定申告のサポートをする等、入居者や家族などとの信頼関係を大切に、多様な相談事に対応できるように努めている。
5-2-5	楽しみの一つである食事がおいしく食べられるよう、嚥下力の低下を予防するために口腔ケアの支援に努めている。訪問歯科医と施設の看護職との連携で介護職（歯科衛生士）が指導を受け、一人ひとりの口腔内の状態を把握して口腔内の清潔が保てるように支援している。状況を職員で共有する目的で「口腔ケア日報」をつけて対応している。一日三回チェックするとともに、嚥下体操を行っている。
6-2-2	独自のアセスメント、課題分析を実施し入居者の個別ニーズを掴み、ニーズに対しての長期・短期目標を明確にしたケアプランを策定し、定期的な評価を多職種で実施している。目標達成の為に具体的に詳細な内容を明記し、多職種の連携がスムーズにできるように記述している。入居者の自己決定、自立支援、QOLの向上を意識したケアプランの内容であり、入居者の意欲向上、状態改善に繋がっている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
1-1-4	事業計画は、予算から基本方針（行動方針・運営方針）、重点項目など細かく丁寧に策定されている。法人の事業計画に沿って各事業所に於いて、年間事業計画が策定されているが、独自の中長期に渡る事業計画が確認できなかった。施設と職員が一体となって取り組める中長期の事業計画を策定し、計画的・継続的に計画が執行出来る事を期待する。
1-4-2	独自の職員人事考課表を用い、定期的な面接を自己評価の後、主任・課長・ホーム長が評価し、面談は所属長が行っている。今後は適切な評価に基づき、給与や昇格等の待遇面での反映を期待する。
1-4-3	年1回の面接を実施し、人事考課表を策定しているが、総合評価など一定の基準が定められているこ

	とが望ましく、更に自己評価、上司評価、総合評価等の仕組みの構築を期待する。
1-4-7	資格取得のバックアップとして介護福祉士、介護支援専門員合格者にはお祝いとして「図書カード」を寄与している。また、実務者研修受験料の負担や資格受験日、研修日等の出勤日の配慮を行なう仕組みがあるが、更に資格取得者には給与面に反映する等、職員のモチベーションUP繋がる制度が望まれる。